

VIII 自然公園の利用のあり方と管理方針

<主要施策の取組状況>

1 登山道等の施設維持管理と協働実施

① **重点**登山道等の整備・維持管理のための登山情報収集

- ・ 稜線部など登山道周辺で恒常的に土壌流出や斜面崩壊が発生している箇所を中心に、パークレンジャー等による巡視を行い、施設等に関する情報を収集し、計画的な整備・維持管理や台帳管理を進めた。〔8路線 ヤビツ峠大山線、不動尻大山線、下社大山線、大倉尾根線、表尾根線、東海自然歩道、首都圏自然歩道、神ノ川熊笹ノ峰線〕

② **重点**活動団体等との協働による登山道維持管理の実施

- ・ 登山道維持管理補修協定に基づき、みろく山の会（大倉尾根線）、丹沢山小屋組合（二俣鍋割線・鍋割山稜線）、神奈川県自然公園指導員連絡会（下社大山線、表尾根線）が定期的な登山道の維持管理を行った。

③ 環境配慮型山岳公衆トイレの整備・維持管理

- ・ 関係市町村と民間事業者等の協定による環境配慮型トイレへの転換に対する支援は、該当案件がなかった。
- ・ 県が管理する環境配慮型トイレのうち4箇所については、「丹沢大山国定公園公衆トイレ運営委員会」により適切に維持管理が行われた。

④ トイレ紙利用マナーの普及

- ・ 登山者が多い山開きや紅葉の時期などに合わせて、パークレンジャーや公園指導員が、トイレ紙持ち帰りキャンペーンを実施し、山でのトイレマナーの普及啓発を図った。〔2回〕

⑤ 公園利用実態モニタリング（登山者数、水場水質調査）の実施

- ・ 自然公園の利用状況を把握するため、丹沢大山ボランティアネットワーク^{※1}による県民協働調査として、登山者数及び水場の水質に関する調査を行った。
- ・ 登山者数の調査は、機器の不具合等に伴う補修や交換、設置場所の調整等を重ねて精度向上を図るとともに、収集したデータの精査等を進めた。
- ・ 水質調査^{※2}は、登山者や地元住民等に利用されている水場〔22箇所〕で、10項目の調査を行った。

※1	丹沢大山ボランティアネットワーク	丹沢大山地域で自然環境に係る活動を実践しているボランティア団体の自主的な連携を図ることを目的として平成14年に発足した団体で、32団体が参加(H29.4.1)
2	水質調査	調査項目は、大腸菌、一般細菌、塩化物イオン等の10項目。但し、飲料水として利用するための安全性の検査ではない。

2 かながわパークレンジャーや神奈川県自然公園指導員による活動

⑥ **重点**パークレンジャーによる活動

- ・ 巡視や補修活動〔計 83 回〕を行うとともに、登山道補修等の県民協働行事へ参加、不法行為の監視・指導〔計 74 回〕を行った。

⑦ 自然公園指導員による活動

- ・ 巡視のほか、自然公園施設や動植物に係る情報収集や自然公園の利用に関する指導などを行った。〔巡視件数 2,439 件 14.8 件/人〕

3 神奈川県立ビジターセンター等普及啓発施設の活動

⑧ ビジターセンター等普及啓発拠点の活動 (IX-3-⑦)

- ・ 2箇所のビジターセンター(秦野ビジターセンターと西丹沢ビジターセンター)において、自然再生等に関する展示や自然教室等を実施し、自然再生に関する普及啓発を推進した。〔平成 28 年度利用者数：197,149 人、普及啓発事業：138 回(631 人参加)〕

4 自然公園における利用のあり方と管理方針

⑨ **FS**自然公園における利用のあり方と管理方針の検討

- ・ 自然公園の利用のあり方や管理方針の作成について、再生委員会からの意見も踏まえながら、庁内で検討を行った。この結果、当面、管理方針は作成しないこととし、引き続き再生委員会や関係団体と連携しながら、登山道等の整備・維持管理、ルールやマナーの普及啓発、取扱方針などに基づくキャンプ場調査・指導及びトレイルランニング大会に関する指導など、各課題に応じた取組をそれぞれ継続・強化していくこととした。

○登山道施設維持管理等実施状況 (H28)

登山道整備	団体との協働による補修
8 路線	3 団体と協働で 5 路線について補修活動実施

○活動団体との協働による登山道補修実施状況



○ボラネットによる水質調査実施状況



○パークレンジャーによる巡視活動実施状況



○自然公園指導員によるトイレマナーの普及啓発実施状況



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

